

文化講話会【教育文化部会】

ネパールで出会った賢治さん  
— 当たり前前の違いの中で —

講師 岩手県国公立幼稚園・こども園協議会  
顧問 坂本 均氏

(四日町在住)



11月25日花北振興センター大ホールを会場に、70名超の聴講者のもと、講話を戴きました。講話の概要は、次のとおりです。

① ナンダ・プラサド・ウプレティさん来日(1997年)

ジャーナリストであった彼は、青年交流事業で来日し、訪問地のひとつであった花巻市で、多才で農業・仏教に熱心だった『偉大な人』賢治さんに感動した。

帰国後、旅行記で賢治さんを紹介し、良き教師であった賢治を記念する学校を作ろうと決心し、来日から3年後の2000年全財産を処分し、大きな家を借り、ケンジ・インターナショナルスクールを設立、貧しい家庭の為に基金を作り奨学金を与え学ばせている。

② 花巻小学校との交流(2004年)

彼から「賢治の故郷の花巻の子供達と共に、賢治の思想を広めたい」との事から、花巻小学校との交流が始まった。

賢治童話を素材としたものや、

カトマンドウの史跡を紹介する絵が送られてきたが、紙の材質も大きさも様々、絵の具は色鉛筆のみ、日本の子供の絵との違いから、彼らの学校の様子を想像し、目頭が熱くなった事を今でも覚えている。

花巻小学校からも賢治童話の感想画や賢治集会(学習発表会)のDVDなどを送った。

③ 学校訪問(2006年)

10月29日から4日間カトマンドウを訪れ、学校参観や姉妹校締結式を行った。

どの教室にも花巻小から送った絵が飾られ、保育園、幼稚園から小学4年生までが学んでいたが、カトマンドウは不安定な政情で市内の要所々々には、銃を持った兵士が警戒していた。

④ イーハトープ賞奨励賞受賞(2007年)

彼は賢治精神による実践を顕彰するイーハトープ賞奨励賞を受賞するため、再度来花し初めて花巻小を訪れた。

⑤ 音信の途絶えと学校再開(2008年)

その後、政変の混乱の中、家主より退去を求められ学校の継続を断念し、一時は音信も途絶えた。しかし保護者から学校再開の訴えが強くなり、一旦あきらめた教育活動を再開する事とした。

⑥ 彼の教育方針と再訪問(2013年)

なぜ親たちは彼に教育の再開を願ったのか?それは、彼の教育方針がネパールの教育方針と違い、日本では当たり前の子供を前面に出そうとするものであったからだろう。

再び彼の学校を訪問し変わらぬ教育に努めている彼と旧友を温めることが出来た。日本とネパールの当たり前前の違いは、教育界だけでなく社会全体にも見られる。

2015年の4・5月、ネパールは、大地震に見舞われ、学校を避難所として開放し食事提供など支援を行う。一ヶ月半後には授業再開を果たした。花巻小では児童会の活動として



聴講する皆さん

花巻小では児童会の活動として

募金活動に取り組み、職員・PTA会員・有志が加わり義援金を送った。現地では10倍の貨幣価値を持つ義援金は、彼にとって大変有難いものであった。彼は賢治の思想を、そのままに生かした実践をしています。

花巻城下町・発祥の地  
四日町・日市町案内板の設置

教育文化部会 松田 匡史

昨年11月に花北コミュニティ協議会より「花北の歴史を学ぶ」を発刊し花巻町誕生に至る流れを紹介しておりますが、今回、「四日町・一日市町家数書上絵図」安永9年(一七八〇年)を四日町行在所(現消防センター)に史跡案内板として設置しました。又、明治天皇が東北御巡業で宿泊された場所でもあり、当時の行在所の図面や石碑等もあります。

